

19. 山 梨 県



19 山梨県

A. 医療提供体制の現状

山梨県の特徴は、(1) 全国平均を下回る急性期の医療資源、(2) 急性期医療の甲府への集中、(3) 豊富なポスト急性期の医療資源、である。

(1) 全国平均を下回る急性期の医療資源

県全体の偏差値が病院勤務医数(46)、全身麻酔数(47)、看護師数(48)と、全国平均を下回っている。病床数、一般病床の偏差値が52と全国平均を大きく上回っており、急性期の病床の割合が低いことが予想される。

(2) 急性期医療の甲府への集中

中北(甲府)に人口の55%が集中しているが、年間1,000例以上の全身麻酔を行う施設は、中北に集中しているため、病院勤務医の65%、全身麻酔の82%、看護師の59%と、人口以上の割合で医療資源がこの地域に集中している。一方、峡南、富士・東部は、医師、麻酔数、看護師も偏差値が40前後であり、医療提供の少ない地域である。

(3) 豊富なポスト急性期の医療資源

峡東には石和(いさわ)を中心に複数のリハビリ病院があり、主に首都圏からのリハビリ患者を受け入れている。その結果、峡東地区の偏差値は、病床数(70)、病院勤務医数(48)、全身麻酔数(36)、看護師数(59)という特異な構成になっている。

B. 人口動向と将来に向けた地域の医療福祉の整備の方向性

(中北)

中北(甲府)には山梨大学があるが、人口当たりの偏差値が、一般病床(53)、病院勤務医(50)、全身麻酔件数(54)、看護師数(51)と、医学部のある地方の医療圏としては、低めのレベルにある。一方、山梨県全体の医療提供レベルが低めの影響により、中北に山梨県の病院勤務医の65%が、全身麻酔数の82%が集中しており、山梨県の他の3つの医療圏からの多くの患者を受け入れている。人口当たりの病院勤務医と看護師の配置レベルがほぼ全国平均レベルの配置レベルである中北地区が、人口86万人の山梨県の急性期医療を支えている。

2010→35年の山梨県全体の総医療需要が6%増、0-64歳の医療需要が27%減、中北の総医療需要が12%増、0-64歳の医療需要が23%減を考えると、現在不足気味の急性期医療の

提供能力が、人口減の影響により適正レベルに近づいていくことが予想される。また、中北の75歳以上の医療需要54%増加が予想され、山梨県全体も中北も総高齢者ベッド数が少ないので、高齢者施設の増強が必要であろう。また、急性期病床の一部を、後期高齢者に対応する病棟に転換することが望ましい。

(峡東)

峡東は、急性期医療は弱く、リハビリ施設が全国トップクラスである特異的な医療圏である。人口10万人当たりの回復期病床数が454床と全国平均の48.2床の9.4倍、人口10万人当たりの総療法士数が350人で、全国平均68.7人の5.1倍である。一方病院勤務医数(48)、全身麻酔数(36)、看護師数(59)であり、この多くがリハビリに関わっていることから、急性期医療の多くは中北に強く依存していることが予想される。

今後、首都圏の後期高齢者の激増によりリハビリのニーズは高まるので、この地域のリハビリ機能が、首都圏のリハビリ需要を支える状況が続く可能性は高い。また、地域内の医療機関の急性期対応能力の強化とネットワーク化を基本に、中北との連携の強化を図ることが望ましい。

(峡南、富士・東部)

峡南と富士・東部は医療提供が手薄な地域であり、人口当たりの偏差値は、一般病床数が(49)と(42)、病院勤務医が(39)と(39)、全身麻酔数(35)と(41)、総看護師数(41)と(38)と医療資源が全般的に少ない。峡南は中北へ、富士・東部は中北と峡東への医療の多くを依存している。

2010→35年の峡南と富士・東部の総医療需要が14%減と2%増、0-64歳の医療需要が40%減と31%減、75歳以上の医療需要5%増と39%増を考えると、地域内の集約化とネットワーク化の強化を進め、中北からの支援と連携の強化を図ることが望ましい。

表 19-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口	県内シェア	面積	県内シェア	人口密度	地域タイプ	高齢化率	2010→35年総人口増減率	2010→35年75歳以上人口増減率
全国	128,057,352		372,903		343.4		23%	-14%	59%
山梨県	863,075	41位	4,461	32位	193.5		25%	-14%	43%
中北	473,854	55%	1,336	30%	354.7	地方都市型	23%	-11%	54%
峡東	141,288	16%	756	17%	186.9	過疎型	26%	-16%	38%
峡南	58,137	7%	1,060	24%	54.9	過疎型	34%	-29%	5%
富士・東部	189,796	22%	1,309	29%	145.0	過疎型	24%	-18%	39%

高橋泰、(株)ウェルネス、「二次医療圏データベース 集計集」2012

(A.「医療提供体制の現状」、表19-1、表19-2、表19-5、図19-4)

厚生労働省「医療計画の見直しに関する都道府県説明会資料」H.24.3

(図19-5)

図 19-1 総人口と75歳以上人口の増減率（2010年→35年）

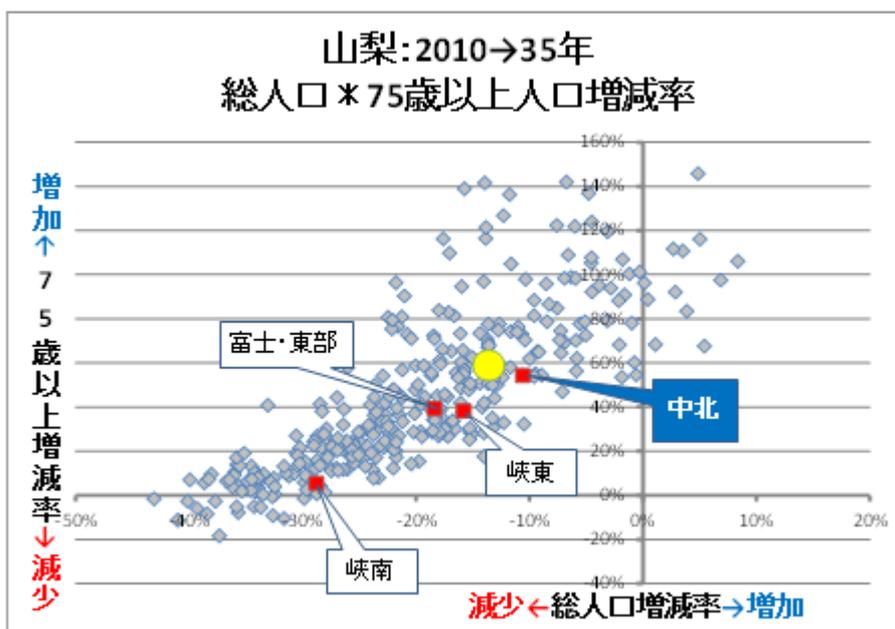


表 19-2 総病床数、一般病床数、総高齢者ベッド数

二次医療圏	総病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	一般病床数(再掲)	県内シェア	人口10万当り	偏差値	総高齢者ベッド数	県内シェア	75歳1000人当り	偏差値
全国	1,672,549		1,306	504	915,096		715	244	1,344,835		96	20.5
山梨県	12,201	0.7%	1,414	52	6,534	0.7%	757	52	9,107	0.7%	83	44
中北	6,643	54%	1,402	52	3,683	56%	777	53	4,616	51%	83	44
峡東	3,287	27%	2,326	70	1,444	22%	1,022	63	1,967	22%	100	52
峡南	559	5%	962	43	405	6%	697	49	1,073	12%	92	48
富士・東部	1,712	14%	902	42	1,002	15%	528	42	1,451	16%	62	33

※偏差値の「全国」については標準偏差を示している。以下同様。

図 19-2 病床数（人口 10 万当たり）、総高齢者ベッド数（75 歳以上 1,000 人当たり）

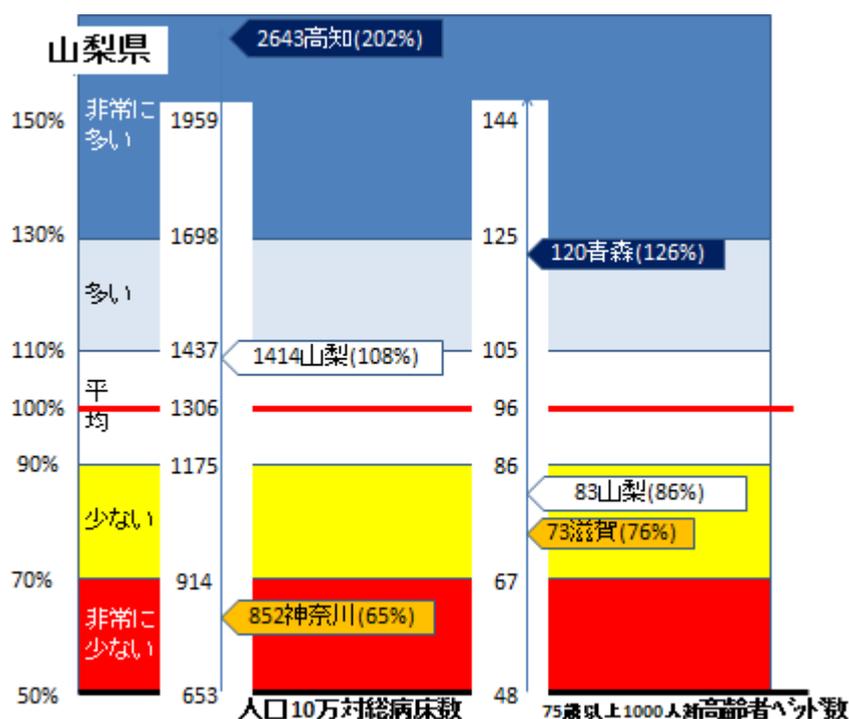


表 19-3 療養病床数、回復期病床数、精神病床数

二次医療圏	療養病床数				回復期病床数				精神病床数			
	療養病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	回復期病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	精神病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値
全国	333,717		261	208	61,697		48.2	44	349,345		273	211
山梨県	2,208	0.7%	256	50	893	1.4%	103	63	2,468	0.7%	286	51
中北	1,260	57%	266	50	251	28%	53	51	1,391	56%	294	51
峡東	638	29%	452	59	642	72%	454	142	541	22%	383	55
峡南	150	7%	258	50		0%	0	39		0%	0	37
富士・東部	160	7%	84	42		0%	0	39	536	22%	282	50

表 19-4 救命救急センター数、がん診療拠点病院数、療法士数

二次医療圏	救命救急センター				がん診療拠点病院				療法士数			
	救命救急センター	県内シェア	人口100万当り	偏差値	がん診療拠点病院	県内シェア	人口100万当り	偏差値	療法士数	県内シェア	人口10万当り	偏差値
全国	203		1.59	2.43	377		2.94	3.5	87,999		68.7	38
山梨県	1	0.5%	1.2	48	3	0.8%	3.5	51	969	1.1%	112	61
中北	1	100%	2.1	52	3	100%	6.3	60	396	41%	83	54
峡東	0	0%	0	43	0	0%	0	42	495	51%	350	124
峡南	0	0%	0	43	0	0%	0	42	27	3%	46	44
富士・東部	0	0%	0	43	0	0%	0	42	52	5%	27	39

表 19-5 病院勤務医数、総看護師数、DPC 病院での全身麻酔件数

二次医療圏	病院勤務医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	総看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	全身麻酔件数	県内シェア	人口10万当り	偏差値
全国	157,166		123	53	843,730		659	222	1,790,784		1,398	795
山梨県	892	0.6%	103	46	5,394	0.6%	625	48	9,892	0.6%	1,146	47
中北	580	65%	122	50	3,186	59%	672	51	8,122	82%	1,714	54
峡東	155	17%	110	48	1,214	22%	859	59	358	4%	253	36
峡南	38	4%	65	39	268	5%	461	41	134	1%	230	35
富士・東部	119	13%	63	39	727	13%	383	38	1,278	13%	673	41

図 19-3 病院勤務医数（人口 10 万人当たり）

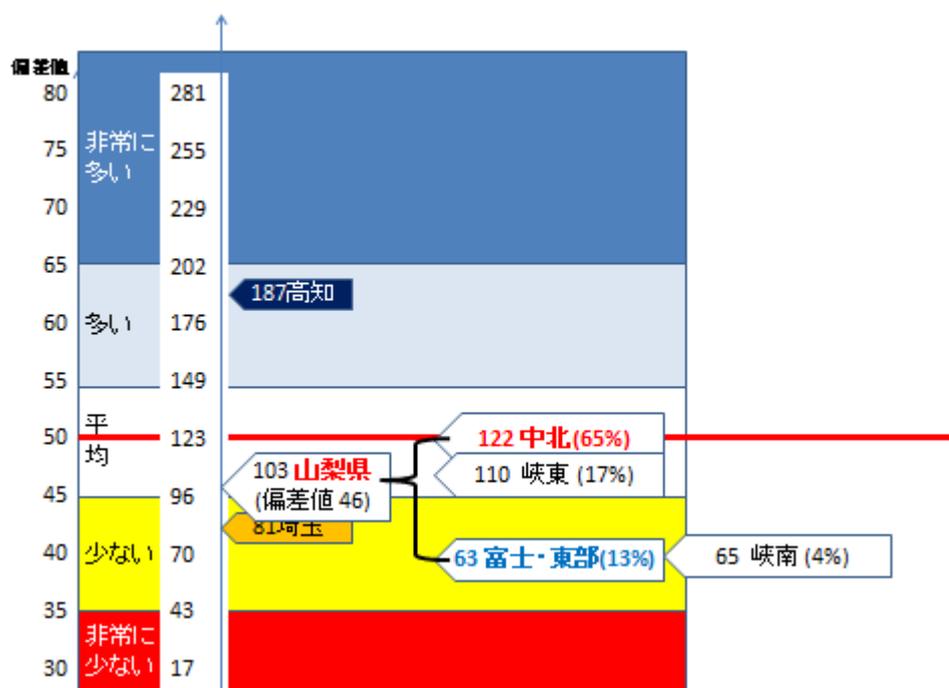


図 19-4 医療圏別基幹病院別全身麻醉手術数

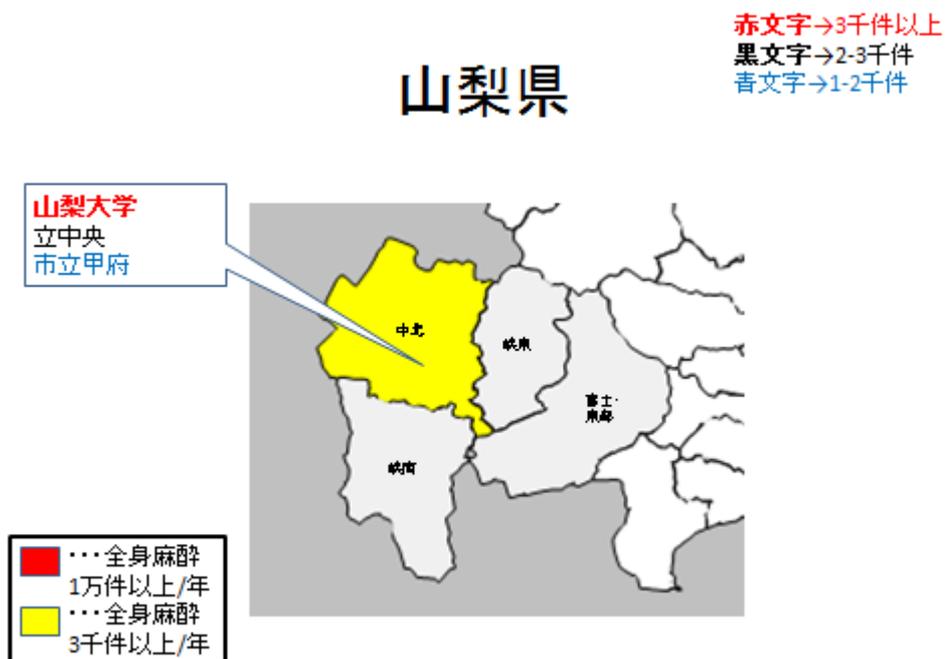


図 19-5 二次医療圏（流入出）

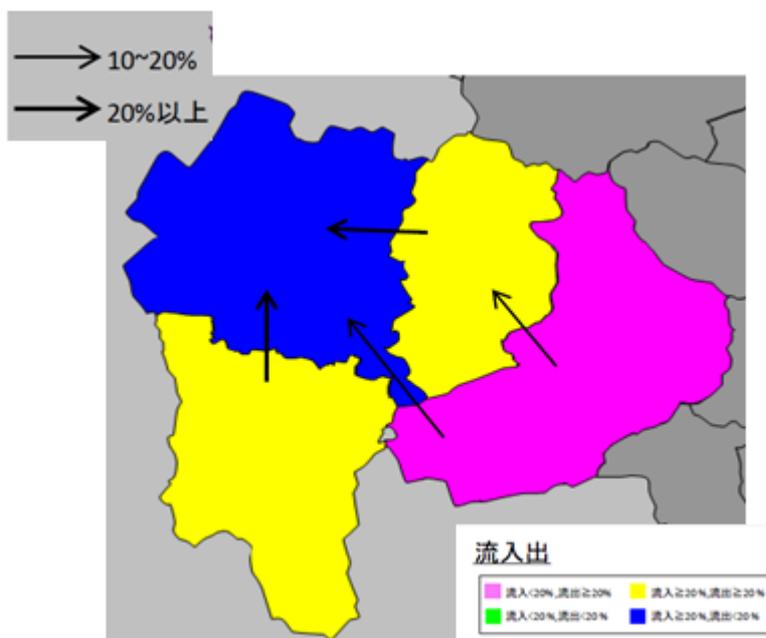


表 19-6 介護保険施設ベッド数と高齢者施設収容数

二次医療圏	介護保険施設 ベッド数	介護保険施設			老人保健施設収容数(再掲)				特別養護老人ホーム収容数(再掲)			
		全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値		
全国	704,693		50	11.6	308,426		22	5.6	396,267		28	10.1
山梨県	5,943	0.8%	54	53	2,700	0.9%	24	55	3,243	0.8%	29	51
中北	2,787	47%	50	50	1,296	48%	23	53	1,491	46%	27	49
峡東	1,180	20%	60	58	510	19%	26	57	670	21%	34	56
峡南	754	13%	65	63	324	12%	28	61	430	13%	37	59
富士・東部	1,222	21%	52	52	570	21%	24	54	652	20%	28	50

表 19-7 高齢者住宅数(高齢者住宅、有料老人ホーム、グループホーム)

二次医療圏	高齢者 住宅数 合計	高齢者住宅			有料老人ホーム				グループホーム			
		全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値		
全国	640,142		45	18.1	235,778		16.8	10.9	157,413		11.2	6.0
山梨県	3,164	0.5%	29	41	574	0.2%	5.2	39	756	0.5%	6.9	43
中北	1,829	58%	33	43	273	48%	4.9	39	510	67%	9.2	47
峡東	787	25%	40	47	276	48%	14.0	47	132	17%	6.7	43
峡南	319	10%	27	40	5	1%	0.4	35	60	8%	5.2	40
富士・東部	229	7%	10	30	20	3%	0.8	35	54	7%	2.3	35

表 19-8 2010年→35年の介護・医療の需要予測

二次医療圏	地域 区分	2010→35 総医療 需要	2010→35年の医療需要予測				2010→35 総介護 需要
			2010→35 0-64歳 医療需要	65-74歳 医療需要	0-74歳 医療需要 (再計)	75歳以上 医療需要	
全国		9%	-26%	-2%	-17%	59%	50%
山梨県		6%	-27%	2%	-17%	43%	37%
中北	2	12%	-23%	8%	-13%	54%	47%
峡東	3	4%	-28%	-3%	-19%	38%	33%
峡南	3	-14%	-40%	-24%	-33%	5%	3%
富士・東部	3	2%	-31%	0%	-20%	39%	33%

図 19-6 山梨県 2010年→35年介護医療需要の増減予測

